



しののめ

創立40周年記念 平成28年2月2日発行



＜尾張旭市青少年健全育成推進大会「僕の意見 私の考え」発表より＞

『オンリー1であるために』

東中学校二年 名原夕稀

「世界に一つだけの花」という歌。覚えやすいメロディーと歌詞の内容が良い事などから教科書にのる事にもなり、みなさんも一度は耳にした事があるのではないのでしょうか。

でも私はこの歌の歌詞があまり好きではありませんでした。「ナンバー1にならなくてもいい、もともと特別なオンリー1」このフレーズがいつも気になっていました。たとえ結果としてナンバー1になれなかったとしても、ナンバー1を目指して頑張るべきなのではないか

と思っていたからです。ナンバー1になれない人達が、自分で自分をなぐさめているようにしか聞こえなかったのです。もちろん、この歌詞にこめられた意味が、自分の解釈とは違うのだろうと分かっていても、どうしても共感できずにいました。けれど、そんな私の考えが変わる出来事がありました。



分がいました。「障害があるのに頑張っているのよ。」「ごいな。」という同情の気持ちはなくなり、心から「かっこいいな」と思っていました。どんなに頑張っても演技をしても、見た目の美しさだけで言え、健常児の子に負けてしまうかもしれません。でもその子にしか出来ないオンリー1の素晴らしさがありました。私はこの事をきっかけに、あの歌詞の内容に共感できるようになりました。

近頃、オンリー1や個性という言葉がよく使われ、採用試験などにも個性を重視するといったニューズをよく聞きます。でも、これらの言葉は自分を甘やかす為に使う事も出来るのです。人はそれぞれ、かけがえのない存在です。でも社会で生きていく以上、少しでも貢献できるように、努力しなければいけません。健全な成人が仕事もせず、引きこもってゲームをする事を、オンリー1の姿にしてはいけません。個性だとしても、TPOをわきまえる事は必要だし、他人に迷惑をかけるような行動をする事は許されません。一人だけ奇抜な格好をしたり、授業中に騒いだりする事を個性として正当化する事は間違っていると思います。人と違う事をすれば良いという訳ではないのです。

私には年の離れた弟がいます。弟の通う幼稚園の運動会を見に行った時のこと、両足が不自由で車イスに乗っている女の子がいました。自分で立つ事も出来ないのに、その子は他の子と一緒に組み立て体操をしていたのです。出来な

い事は周りの子が上手くフォローし、出来る事を精一杯がんばっていました。初めは「あの子はどうやってやるのだろう」と興味本意で見えていました。けれど、途中からその子の足に障害がある事を忘れるくらい、演技に感動している自分

私は、組み立て体操を頑張っていた女の子のように、自分の存在が周りから認められる人間になりたいです。そして、自分の個性としてアピール出来る特技を沢山身に付けていきたいと思っています。

尾張旭市青少年健全育成推進大会 「僕の意見 私の考え」発表より

『いじめは助けられて助けてあげられる』

尾張旭市内小学校六年生

小学4年生の秋ごろ、私は理由もわからず3人の男子にいじめられる様になった。なぜ、私はいじめられるターゲットになってしまったのだろうか。それから私の恐怖の1ヶ月間がスタートした。

それからのこと、私はその3人が一緒にいると、私のことを言っているかもしれないと、不安になってしまい、すごく心が苦しかった。私の気持ちはもうくずれてしまいそうだった。元気が全然でなくて食欲がなかった。でも、お母さんや、お父さんに心配をかけてしまうと迷わくをかけてしまうと、お父さんにお母さんもお父さんも私に気づいていたのかもしれない。私に対する3人の行動がだんだんエスカレートしていく。私が見ただけ席に座っているのに、むこうがわざとあたってきて、

「じゃま」

と怒った様に言ってくる。その後、わざと私の後ろに来て舌打ちを何回もしてくる。本当に苦しかった。私はもう学校生活を送ることがすごくいやになった。もう学校に行きたくなくなかった。

私はすごくイライラしていた。もう、何もかもがめんどくさくて、何かをする気分じゃなかった。自分でもわかるほど、心がおかしかった。次の日のことを思い浮かべると、明日は何をされるのか。など、色々なことを考えてしまい、夜、ねむれない日があった。とにかく心が苦しくて、死にたいと思った日があったのかもしれない。私はいじめを受けているときつぶやいた、

「学校は、なんであるんだろう？？学校なんてなければいいのに……。」

と心からそう思った。こう思ったときから、学校生活の毎日ですごくいやになった。そしてその1ヶ月間の中で一番うれしい日は土曜日と日曜日、3人の視線を気にしないでふつうに笑って過ごした。でも、また月曜日から、恐怖の1週間が始まるうとしていた。

そしてある日、

「もういやだ……。」

と思った。ついに私はお母さんに話した。

「A君とB君とC君にいじめられてる。」

と言った。今まで起きたことをはじめから、いままでのことを全て言った。私は、自分から言うことができ、心がスッキリし、あつと言う間に軽くなった。今までのことをお母さんに話していると、自然になみだが出てきて、とまらなくなってしまう。そうしたらお母さんが、

「〇〇は何も悪くないからね。明日先生に相談してみな。」

と言ってくれた。その言葉は私にとって、とっても勇気が出る言葉だった。

そして次の日：私は担任の先生に全てを話した。先生は、

「よく話してくれたね。それじゃあ、その3人から話を聞くね。」と言ってくれた。話しているとき、またなみだがあふれていてとまらなくなってしまう。そうしてしばらく私のことを先生が話してくれたおかげで私に対するいじめは終わった。私はこの体験をしてすごく苦しいことがわかった。だから、私はもしいじめられている人がいたら助けてあげようと思った。

そして、5年生の2学期ごろのことだった。となりのクラスの仲良い友達が男女からいじめられていた。男子からはわざと大きな声で「死ぬ」や「きもい」と言われていた。しかも、女子からは体育で着替えているとき、けられて、

「いいたいことあったら言えよ……」

と言われていたらしい。私はその話を聞いて、助けたいと思い、担任の先生に相談した。そして、お母さんにも話してみた。お母さんは、

「助けてあげられることがあったら、助けてあげられるといいね。」

と言ってくれた。私はうなずいた。そして、3週間くらいたったときのことだった。友達がいじめがなくなった。なぜ、いじめはなくなったのかは、クラスの誰かが、

「やめようよ……！」

と言ったからだ。それからのこと、いじめはなかった。友達も笑顔で学校生活を送っている。私はすごく安心した。あまり、助けてあげることができなかつたけど、いじめがなくなつて良かった。そして、クラスみんなが笑ってすごせるようになって本当「うれしかった」。

私は本当に貴重な体験をした。この体験から生かせることがあればどんどん生かしていきたいと思った。



オープニングのジャズ演奏

尾張旭市立東中学校 学校だより「しののめ」編集部

〒488-0051 愛知県尾張旭市下井町前の上1602番地

教頭：加藤奈保樹 ☎ 0561(54)6511 FAX 0561(52)2905